

平成22年度あしたのまち・くらしづくり全国フォーラム
第2分科会「広げよう地産地消の輪を～生産から食卓まで～」
参加者アンケート（平成22年11月16日実施）

- ・ 伝統野菜の種を大切に保存して伝えなければならないと大変勉強になった。
(60代女性)
- ・ 基調講演の大竹先生、事例発表の2人とも素晴らしく感動した。自分たちの地域にも取り入れたい。(60代女性)
- ・ 江戸野菜の話がよかった。(70代女性)
- ・ 今年の分科会のように、その土地の良いところを紹介してほしい。
(70代女性)
- ・ かつて八百屋をしていた時の、江戸東京野菜への思いがよみがえった。
(70代女性)
- ・ 種の選び方の苦労話を伺い、都民として驚きを受けた。(60代女性)
- ・ 江戸東京野菜の広がり、種の取り方等についてとても興味深く話を聞いた。
我が家も野菜作りをしているが種をとるのがむずかしい。これから頑張りたい。
(60代女性)
- ・ 伝統野菜・郷土料理の掘り起こしには、一流のシェフでなくても一般家庭の経験者の方がみんなに喜ばれるのが良い。(70代女性)
- ・ 高齢者だから引込むのではなく、昔の懐かしい料理等を若い方々に教え伝えて元気になってほしい。対話が大事だとつくづく思った。(70代女性)
- ・ 東京で数多くの野菜が作られていることに驚いた。
講演の言葉にあったように、まさに「東京の農業は、日本の農業の縮図である」ということになるほどと思った。
地産地消の大切さを改めて実感した。(30代女性)